

「地域活性手法としてのオンパク」

--地域資源開発と人材育成--

■地域の盛衰のサイクル;胎動→発展→成熟→衰退→再生

■地域を磨く「ハットウ・オンパク」というイベント

- ・ 2001年秋から2009年春まで14回開催
- ・ 体験交流型プログラムの5つのテーマ(地域資源の優位性・独自性の発見・発掘→磨き上げ→商品化)
 - 1)天然温泉力の体験(10/11種の泉質、400の外湯、多様な伝統入浴法/砂湯、蒸し湯、泥湯等)
 - 2)地域文化の体験(散策系)
 - 3)温泉+健康・癒し・美の体験(専門インストラクターによるプログラム)
 - 4)別府と周辺部の自然の体験(エコツーリズム系)
 - 5)別府の日常食文化の体験(地獄蒸し食堂など)
- ・ 1回当たり約100種類以上のプログラムづくり
- ・ 約200の地場協力事業者(パートナー)
- ・ オンパクファン倶楽部5500名のデータベース

■展開

- ・ オンパク・プログラムの日常化に向けて、04年にNPO法人化
 - 1)デイリーオンパク→ブランド開発、プログラム開発とシステム開発
 - 2)オーダーメイド・オンパク→現地手配業務(着地型商品)
 - 3)ウエルネス産業の振興→人材育成
 - 4)旅行マーケットへの波及→08年から新ブランド「オンパク・ジネタビ」の販売へ
- ・ ジャパン・オンパクの展開→函館湯の川、熱海、都城など全国10カ所で開催
- ・ 中心街活性化計画へオンパク・タウン事業計画(ソフトからハードへ)

■地域再生3つのキーワード

別府八湯(ハットウ)では90年代中盤から地域再生の運動が民間で興った。地域づくり運動が交流人口増加と結びつく段階にあり、別府のブランドカアップに貢献し、別府八湯ファンを着実に増やしつつある。

- 1)地域を「語れる」こと。愛着
- 2)「民間」の発案
- 3)人材ネットワークと仕組みづくり(とくに「ヨソモノと女性」)

■八湯文化再生こそが、新たな温泉地づくり

- ・ 5つの地域文化再生
 - 1)八湯文化の再生---8つの温泉地の個性化
 - 2)外湯の文化再生---400以上ある外湯の再生ネットワーク化
 - 3)湯治文化の再生---予防医学の研究と長期滞在の研究
 - 4)路地の文化の再生---道路拡幅と震災を受けなかった町の界隈性の復活
 - 5)別荘文化の再生---豊かな生活空間、都市景観の復活
- ・ 近代化遺産・建築物の活用支援;物語のある独自の「場」としての展開
- ・ 環境と景観の保全

■目標

「滞在型温泉地をめざしてウエルネス産業等の振興を行い、同時に日本全国にジャパン・オンパク プロジェクトを拡大する」

【参考;別府八湯・日本一】

- ・ 日本一。湧出量は1日13.7万キロリットル。日本国民に1日1リットルの温泉を配布できます。
- ・ 日本一。日本で区分される11種の泉質のうち10種類存在します。温泉通の「聖地」と言われます。
- ・ 日本一。源泉数2847。日本の10分の1が集中しています。
- ・ 日本一。伝統的な竹瓦温泉など400の外湯があります。

●連絡先 鶴田浩一郎 NPO法人ハットウ・オンパク代表理事・ホテルニューツルタ社長●

tel 0977-22-1110 fax 0977-21-1019

tsuruta@newtsuruta.com <http://www.newtsuruta.com>